



## 平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年1月26日

上場会社名 ムラキ株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 7477 URL http://www.muraki.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 永井 清美  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 上中 良典 TEL 042-357-5610  
 四半期報告書提出予定日 平成29年2月10日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績（平成28年4月1日～平成28年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	6,348	1.4	△55	ー	△46	ー	△77	ー
28年3月期第3四半期	6,258	△2.6	△35	ー	52	△41.2	14	△56.9

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 △76百万円 (ー%) 28年3月期第3四半期 15百万円 (△58.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	△5.49	ー
28年3月期第3四半期	1.01	ー

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年3月期第3四半期	4,684	2,239	47.8	157.72
28年3月期	4,935	2,344	47.5	165.09

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 2,239百万円 28年3月期 2,344百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	ー	1.00	ー	1.00	2.00
29年3月期	ー	1.00	ー		
29年3月期(予想)				1.00	2.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成29年3月期の連結業績予想（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,503	5.1	△124	ー	△113	ー	△168	ー	△11.83

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有  
新規 1社 （社名）株式会社ミツワ商会、除外 1社 （社名）－

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年3月期3Q	14,700,000株	28年3月期	14,700,000株
② 期末自己株式数	29年3月期3Q	500,924株	28年3月期	500,924株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年3月期3Q	14,199,076株	28年3月期3Q	14,199,076株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しておりません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及びその他の関連する事項につきましては、添付資料の3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(3) 追加情報	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、英国のEU離脱問題や米国の新政権による諸政策から為替の乱高下が生じ、これらは海外経済の不確実性の高まりと金融資本市場の不透明性を誘発しながらも雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調が見られました。一方、国内消費環境は消費増税の再延期やインバウンド需要の減少が内需の回復を阻害し、企業の業況判断には慎重感が漂い景気回復の実感がないまま推移いたしました。

当社グループの主力販売商品であるカーケア関連商品の販売先であるサービスステーション（略称：SS）業界においては、JXホールディングスと東燃ゼネラル石油の大規模経営統合が計画どおり来春には実現段階に入ります。これは国内販売シェアの過半数を握る圧倒的トップブランドとなり、当社グループにおける市場環境も一段とその展望の広がりを見せます。もう一方の旗幟となる出光興産と昭和シェル石油も同質形態としてこれに間を置かず続くものと思われまます。これにより当社グループが展開するカーケア関連市場のみならず、わが国の石油エネルギー市場も大きな変革期に入ろうとしています。

このような経済、市場環境の下、過渡期とはいえSS側の販売商品の狙いと当社の方向性の照準に懸隔が生じ、当第3四半期会計期間にて舵取りの修正により、増収を実現したものの、上期の影響を払拭するに至らず、当第3四半期連結累計期間は前年対比、増収減益となりました。この現実を糧に、今後の営業活動は地域性を踏まえ、顧客のニーズに合わせた適正妥当な対応を履行してまいります。なお、カーケア関連業界も大きな変革が切要な潮目を迎えているといえます。

来期はこの業界再編の産物として新たなSSのプロトタイプやビジョンが確立されるのは必然的なフローであり、まさにその時SSの期待や要求の受容体となるものがムラキプロジェクトで培われた一連の快適新空間そのものであると考えます。

当社グループは今後、この斬新で絶大な市場環境の波に乗り、石油元売各社とより緊密な関係を保ちながら市場ニーズに沿った構造改革をもってドミナント戦略を展開してまいります。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高 6,348百万円（前年同期比 1.4%増）となりました。

収益面におきましては、営業損失 55百万円（前年同期の営業損失 35百万円）、経常損失 46百万円（前年同期の経常利益 52百万円）、法人税等 31百万円を計上し、親会社株主に帰属する四半期純損失は 77百万円（前年同期の親会社株主に帰属する四半期純利益 14百万円）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

主力事業である「カーケア関連商品販売」事業については、上記の要因から、売上高は 6,180百万円（前年同期比 2.1%増）、セグメント損失は 57百万円（前年同期のセグメント損失 38百万円）となりました。「その他」の事業につきましては売上高は 225百万円（前年同期比29.6%減）となりセグメント利益は 609千円（前年同期のセグメント損失 574千円）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は 3,431百万円となり、前連結会計年度末に比べ 436百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が 711百万円減少したことと受取手形及び売掛金が 333百万円増加したこと及び商品及び製品が 13百万円減少したこと等によるものです。固定資産は 1,252百万円となり、前連結会計年度末に比べ 185百万円増加いたしました。これは主に土地が 80百万円増加したこと及びのれんの増加 80百万円等によるものです。

この結果、総資産は 4,684百万円となり、前連結会計年度末に比べ 250百万円減少いたしました。

## (負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は 1,609百万円となり、前連結会計年度末に比べ 16百万円減少いたしました。これは主に支払手形及び買掛金が 126百万円増加したことと、1年内返済予定の長期借入金が 114百万円減少したこと等によるものです。固定負債は 835百万円となり、前連結会計年度末に比べ 129百万円減少いたしました。これは主に長期借入金が 153百万円減少したことと繰延税金負債が 22百万円増加したこと等によるものです。

この結果、負債合計は 2,444百万円となり、前連結会計年度末に比べ 146百万円減少いたしました。

## (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は 2,239百万円となり、前連結会計年度末に比べ 104百万円減少いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純損失によるものです。

この結果、自己資本比率は 47.8%（前連結会計年度末は 47.5%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成28年9月15日付「特別損失の計上、平成29年3月期第2四半期連結累計期間及び通期業績予想（連結・個別）の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、今後の見通しにつきましては引き続き検討を行い、業績予想に関して修正の必要が生じたなら、速やかに開示する予定であります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

平成28年4月1日に関連会社である株式会社ミツワ商会の株式を追加取得し、同社を当社の完全子会社といたしました。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計方針の変更

（平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用）

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

(3) 追加情報

（繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用）

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

## 4. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,879,628	1,167,862
受取手形及び売掛金	1,014,423	1,347,578
商品及び製品	850,357	836,548
繰延税金資産	4,935	3,776
その他	119,187	76,607
貸倒引当金	△817	△739
流動資産合計	3,867,713	3,431,634
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	770,790	855,241
減価償却累計額	△695,476	△775,528
建物及び構築物（純額）	75,314	79,713
機械装置及び運搬具	16,760	19,139
減価償却累計額	△14,535	△17,276
機械装置及び運搬具（純額）	2,225	1,862
土地	438,325	518,941
リース資産	3,326	3,326
減価償却累計額	△1,718	△2,217
リース資産（純額）	1,607	1,108
その他	198,477	211,302
減価償却累計額	△169,546	△181,651
その他（純額）	28,930	29,651
有形固定資産合計	546,403	631,278
無形固定資産		
のれん	—	80,119
その他	70,877	62,418
無形固定資産合計	70,877	142,537
投資その他の資産		
投資有価証券	57,894	131,726
関係会社株式	39,595	—
差入保証金	332,597	328,086
その他	30,975	30,089
貸倒引当金	△11,002	△11,045
投資その他の資産合計	450,059	478,857
固定資産合計	1,067,340	1,252,673
資産合計	4,935,054	4,684,307

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,007,306	1,133,823
1年内返済予定の長期借入金	473,698	359,083
リース債務	714	732
未払法人税等	39,305	8,328
賞与引当金	7,422	6,219
その他	97,600	101,336
流動負債合計	1,626,047	1,609,522
固定負債		
長期借入金	627,972	474,624
リース債務	1,053	501
役員退職慰労引当金	42,643	35,717
退職給付に係る負債	282,420	293,700
繰延税金負債	256	23,239
その他	10,479	7,489
固定負債合計	964,825	835,273
負債合計	2,590,873	2,444,795
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,910,700	1,910,700
資本剰余金	88,604	88,604
利益剰余金	388,966	282,575
自己株式	△47,442	△47,442
株主資本合計	2,340,829	2,234,438
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,352	5,072
その他の包括利益累計額合計	3,352	5,072
純資産合計	2,344,181	2,239,511
負債純資産合計	4,935,054	4,684,307

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	6,258,595	6,348,692
売上原価	4,687,298	4,787,766
売上総利益	1,571,297	1,560,925
販売費及び一般管理費		
報酬及び給料手当	762,672	780,421
賞与引当金繰入額	3,711	6,219
役員退職慰労引当金繰入額	7,710	9,939
賞与	7,565	6,704
その他	825,404	813,577
販売費及び一般管理費合計	1,607,063	1,616,861
営業損失(△)	△35,765	△55,935
営業外収益		
受取利息	1,812	1,528
仕入割引	19,368	9,715
保険解約返戻金	67,010	4
貸倒引当金戻入額	122	714
その他	8,869	6,139
営業外収益合計	97,184	18,103
営業外費用		
支払利息	5,778	6,195
手形売却損	1,037	761
その他	1,689	1,550
営業外費用合計	8,504	8,507
経常利益又は経常損失(△)	52,913	△46,339
特別損失		
固定資産除却損	291	0
特別損失合計	291	0
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	52,622	△46,339
法人税、住民税及び事業税	36,876	29,908
法人税等調整額	1,335	1,744
法人税等合計	38,211	31,652
四半期純利益又は四半期純損失(△)	14,411	△77,992
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	14,411	△77,992



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	14,411	△77,992
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,457	1,720
その他の包括利益合計	1,457	1,720
四半期包括利益	15,868	△76,271
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	15,868	△76,271
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

- I 前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	カーケア関連 商品販売	その他 (注3)	計		
売上高					
(1)外部顧客への売上高	6,049,518	209,077	6,258,595	—	6,258,595
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	53	111,347	111,400	(111,400)	—
計	6,049,571	320,425	6,369,996	(111,400)	6,258,595
セグメント損失(△)	△38,452	△574	△39,026	3,261	△35,765

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額3,261千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3. 「その他」の区分には、「看板・チラシ等の販促物の企画・製作」「保険・旅行の代理業務」等を含んでおります。

- II 当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	カーケア関連 商品販売	その他 (注3)	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
売上高				
(1)外部顧客への売上高	6,180,227	168,465	—	6,348,692
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	154	57,143	(57,297)	—
計	6,180,381	225,608	(57,297)	6,348,692
セグメント利益又は損失 (△)	△57,598	609	1,053	△55,935

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額1,053千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3. 前連結会計年度末より、近年激変する市場環境に対応するため事業内容を見直した結果、「看板・チラシ等の販促物の企画・製作」「保険・旅行の代理業務」等を報告セグメントに含まれない「その他」としてしております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「カーケア関連商品販売」セグメントにおいて、当社は平成28年4月1日付けで株式会社ミツワ商会の全株式を取得し子会社化しております。

これによる当第3四半期連結累計期間におけるのれんの発生額は83,240千円であります。